

# 温暖化で50年後

# 動植物、2〜3割絶滅？

地球の温暖化が進むと、約50年後には動植物の18〜35%の種が絶滅する恐れがあるという予測を、英国や豪州など14の研究機関が共同でまとめた。8日付の英科学誌「ネイチャー」で発表する。気候変化が、種の絶滅の危機に深く関係していることを示している。

動物は気温が上昇すると、高緯度や高地などへ生息域を移動させる。地形的に移動が難しかったり、適当な場所を確保できなかったりした種は減少を余儀なくされる。

## 欧・豪・アフリカ・中南米

研究グループは、2050年までの温度上昇を最小で0.8〜1.7度、中程度で1.8〜2度、最大2度以上と想定

## 英など14機関試算

定。欧州や豪州、アフリカ、中南米の約1千種の植物と動物を対象に、生息域の変化などから各生物の絶滅の可能性を試算した。

中度の上昇の場合、寒冷な高緯度や高地などに移動できたとしても約2割の種が滅びる恐れがある。移動ができないと3割が絶滅の危機に直面するとしている。

測。欧州の鳥も約4割が危機にさらされるといふ。また、熱帯より温帯域で影響が大きく、絶滅の恐れが高まるとみている。

国立環境研究所の原沢英夫・環境計画研究室長の話。温暖化の視点から生態系の変化を詳細かつ大規模に調査したのは初めてだろう。生態系は人間社会に密接にかかわる。早急な温暖化防止策の必要性が改めて示された。